（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（上伊那地域）

平成 30 年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	天竜川シンポジウム
事業主体 （連絡先）	特定非営利活動法人　天竜川ゆめ会議 長野県駒ヶ根市赤穂 14616-67　㈱緑地計画内
事業区分	⑤環境保全・景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	¥746,110　円（うち支援金：¥559,000 円）

事　業　内　容

【ﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝの様子】

私共、天竜川ゆめ会議は、自分たちの行動目標として掲げているバイブル『天竜川みらい計画』の実現に向けて河川法の3つの柱に「住民の意識」といった項目を追加して活動を続けてきた。『天竜川みらい計画』の思想を反映して平成21年度に天竜川河川整備計画が策定され、今後の天竜川の整備方針が決定した。ところが、その後数年間で天竜川流域に新たな問題が見え始めている。昨年の天竜川シンポジウムでは「地域住民の川離れ」が強く指摘され、『川に行くきっかけづくり』が必要であると結論された。本年はさらに議論を深め、「治水」、「水利用」、「河川環境」を議論しつつ、それぞれのタイトルで「地域と河川の関わり方」について議論する。地域住民と河川行政関係者が、それぞれの立場で活動の方向性や協働を考え、後世に誇れる天竜川を共に創造していくことを目的とする。

事　業　効　果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

① 国土交通省、長野県建設部、飯田市、伊那市、駒ケ根市、飯島町、中川村、宮田村の担当者と実行委員会組織を立ち上げ、企画から当日の運営まで協働でスムーズに行うことができた。

② 基調講演では、川で活躍するＮＰＯや行政が政策として川に行くことを呼びかける「ミズベリング」が説明された。それを受けて分科会、ﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝで議論をそれぞれの項目について細かい議論を行た。

③ それぞれの分科会では、各項目について問題点が揚げられた。特に「治水」では、平常時の川を観察する事により川の異常をいち早く発見できる等、川に行く必要性が議論された。参加者は名簿で 82 名であった。

【目標・ねらい】

① 市民と行政の協働による実行委員会と事業運営
② 住民の川離れの解消
③ 問題の解決と次世代への継承

※自己評価【Ｂ】

【理由】
市民と行政の協働による企画で、会場全体で議論することにより、多くの参加者が情報の共有と合意形成をすることができた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

前述の通り「治水。防災面」から川に行く必要性が指摘されたが、一方で川へ行った場合の川へのアクセスの悪さによる「利用」の悪さ、川の魅力の再発見の重要性も指摘された。「川は危ないから行ってはいけない」と教育された住民たちに、安全で利用しやすい河川環境を整備すべきであるといった意見が多く聞かれた。今後は、ワクワク楽しい川づくり、住民が共有できる楽しい空間づくり、行きたくなる楽しい天竜川をどのように整備するかを議論し、教育関係者も含めて施設整備を提言して行きたいと考えている。